



現在のゴム長靴は
こんなにオシャレなのだ!!

ゴム長靴ゴムナガブーツ＝雨天用
——あるいは作業用？
……いやいやそれは
あなたの勉強不足!

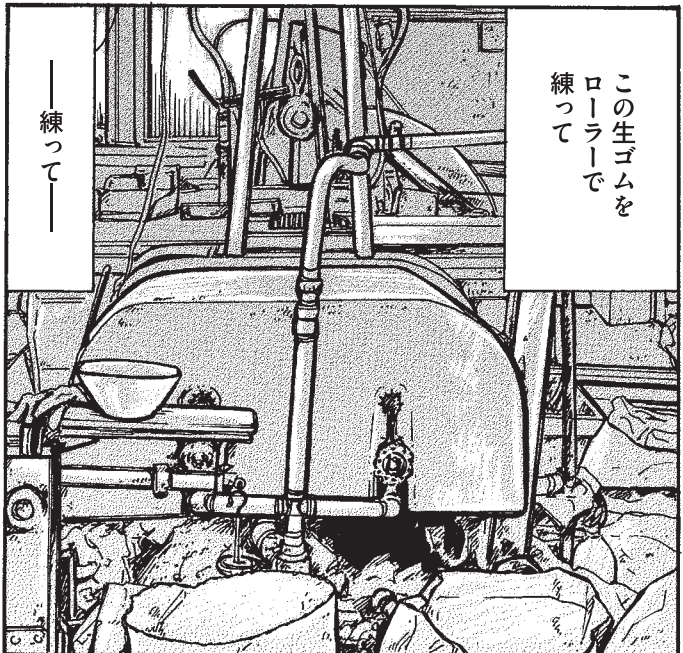
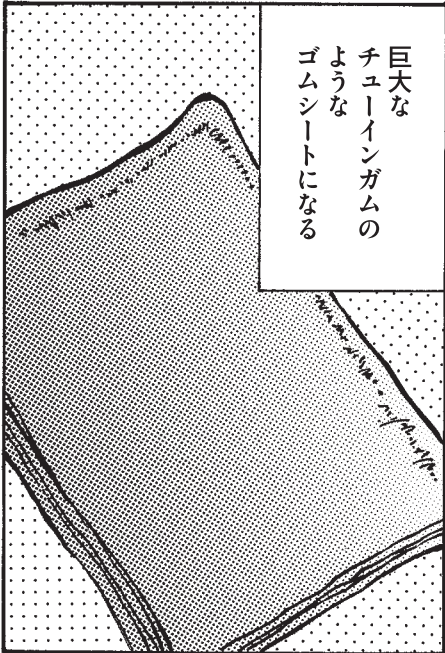
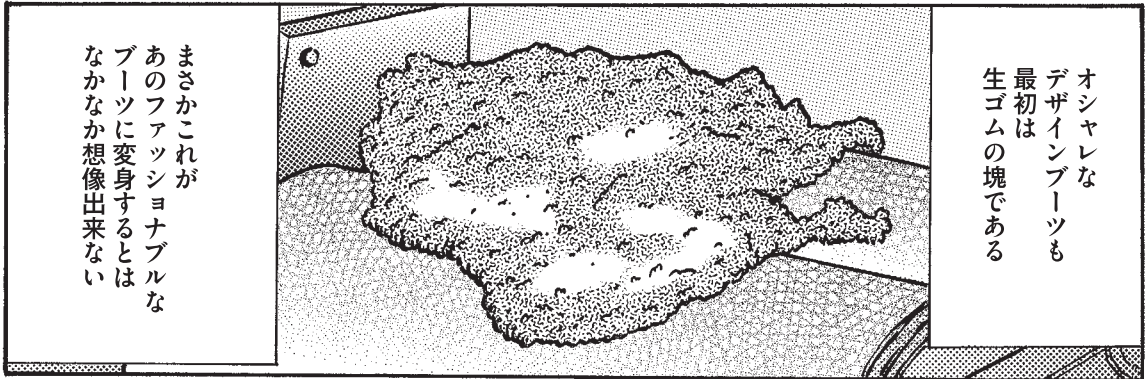


作っているのは
こころ——

しかし この鮮やかな
プリントデザインブーツには
高度な技術が要求される

葛飾ブランド「葛飾町工場物語」
おしゃれなおしゃれな ゴム長靴!
～プリントデザインブーツ～
株式会社 ウッドヴァリ

作・たなかよしみ



昭和31年
—創業

そのころは都内に
36社あった
ゴム靴製造業者も

今では
ウチだけに
なってしまうたねえ

残ってるのは
全国でも
5社くらいだつて
聞いているよ

どこの業界でも
同じだと思うけど
やっぱり中国製品が
ふえたりしてね…
大手メーカーでも
廃業していったよ

ウチも厳しい
状態に置かれて
いたけど

2005年の
秋ごろから
革靴業界からの
注文が増えて
きてねえ

—そう
革靴ですよ！

ホラ こういう
縁の部分の
折り込みとか
裏地貼り…

革靴の製法で
ゴム靴を作ってくれて
注文がきたんですよ

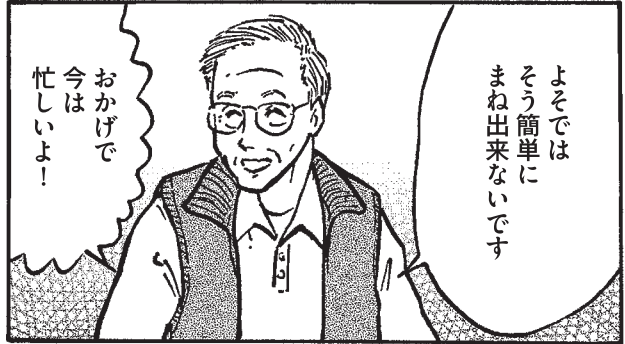
そりゃあ
難しかったですよ

型や材質の
研究からはじめて

試行錯誤を
くりかえして
ようやく製法を
確立できました

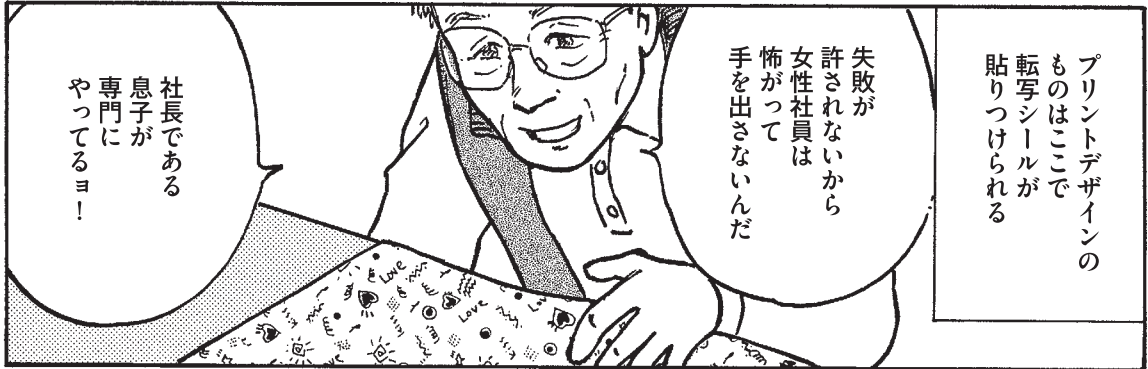


——さて大きな
生ゴムシートは
切り分けられて



よそでは
そう簡単に
まね出来ないです

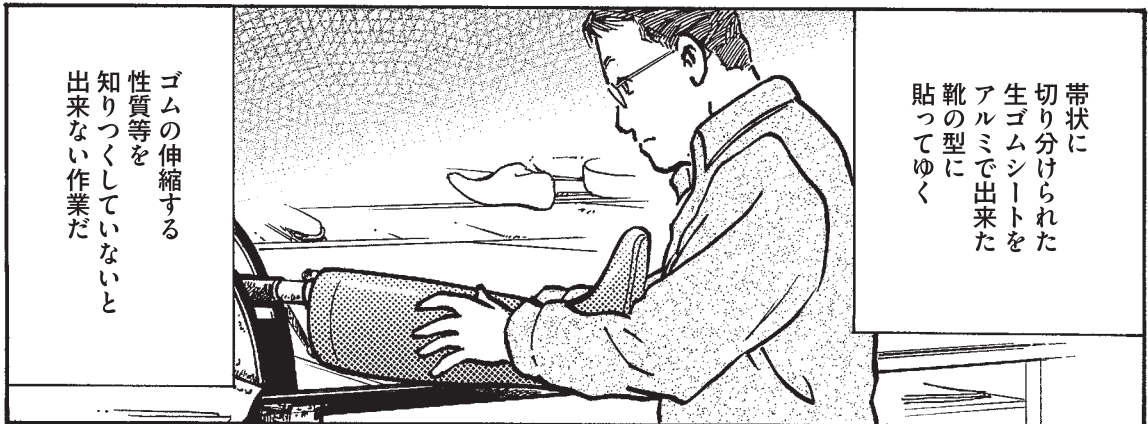
おかげで
今は
忙しいよ！



プリントデザインの
ものはここで
転写シールが
貼りつけられる

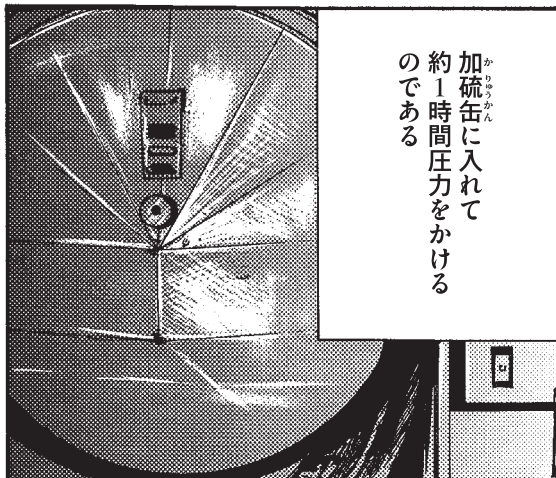
失敗が
許されないから
女性社員は
怖がつて
手を出さないんだ

社長である
息子が
専門に
やってるヨ！

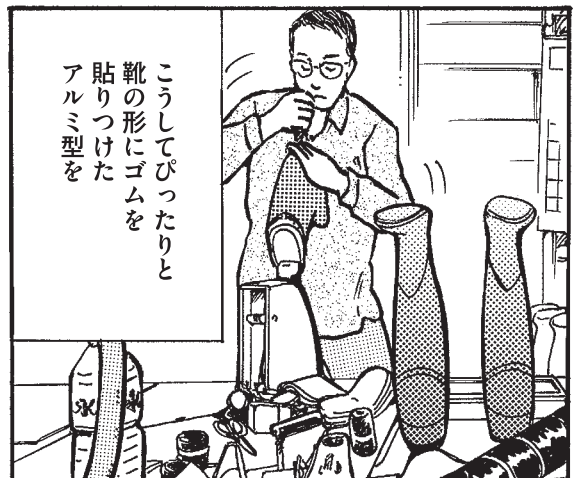


帯状に
切り分けられた
生ゴムシートを
アルミで出来た
靴の型に
貼ってゆく

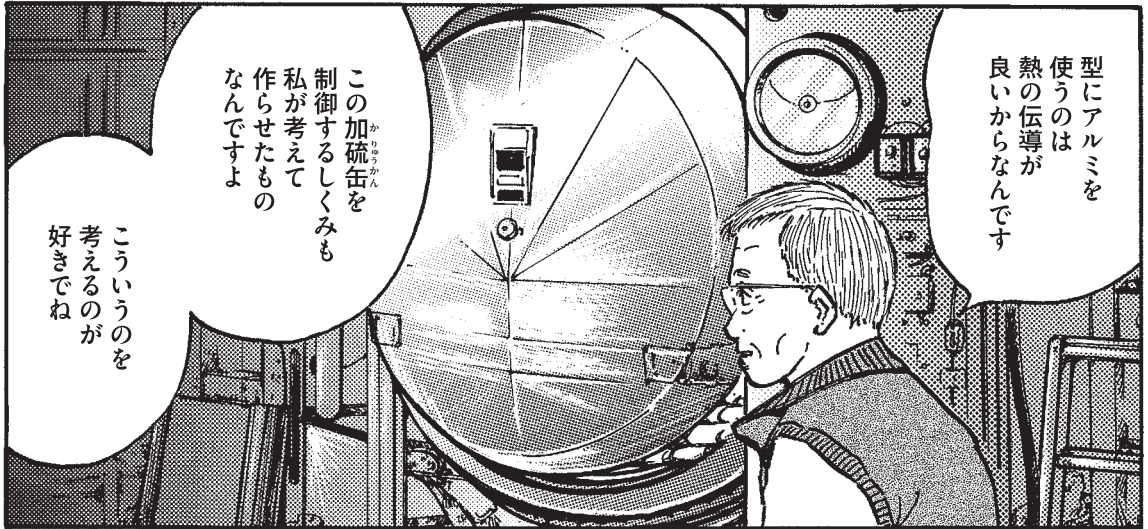
ゴムの伸縮する
性質等を
知りつくしていないと
出来ない作業だ



加硫缶カチウカンに入れて
約1時間圧力をかける
のである



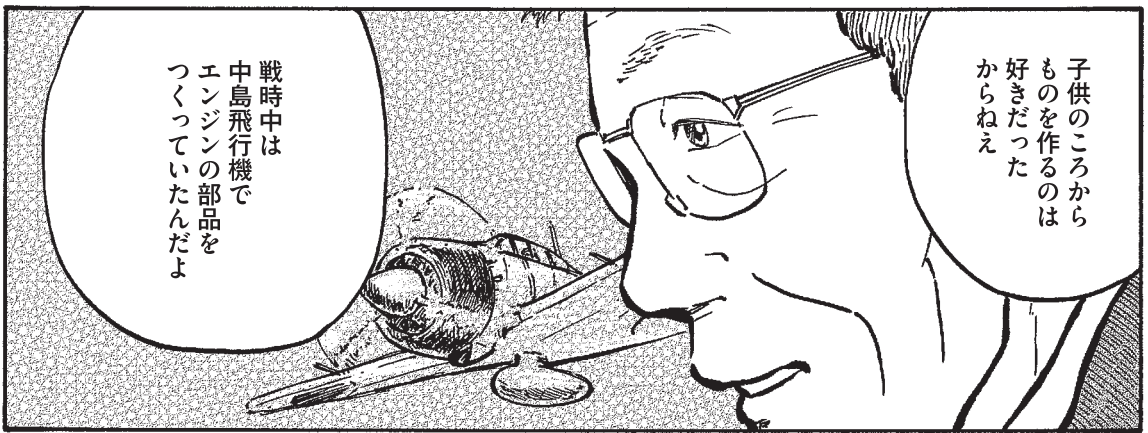
こうしてぴったりと
靴の形にゴムを
貼りつけた
アルミ型を



型にアルミを
使うのは
熱の伝導が
良いからなんです

この加硫缶を
制御するしくみも
私が考えて
作らせたもの
なんですよ

こういうのを
考えるのが
好きでね



子供のころから
ものを作るのは
好きだった
からねえ

戦時中は
中島飛行機で
エンジンの部品を
つくっていたんだよ



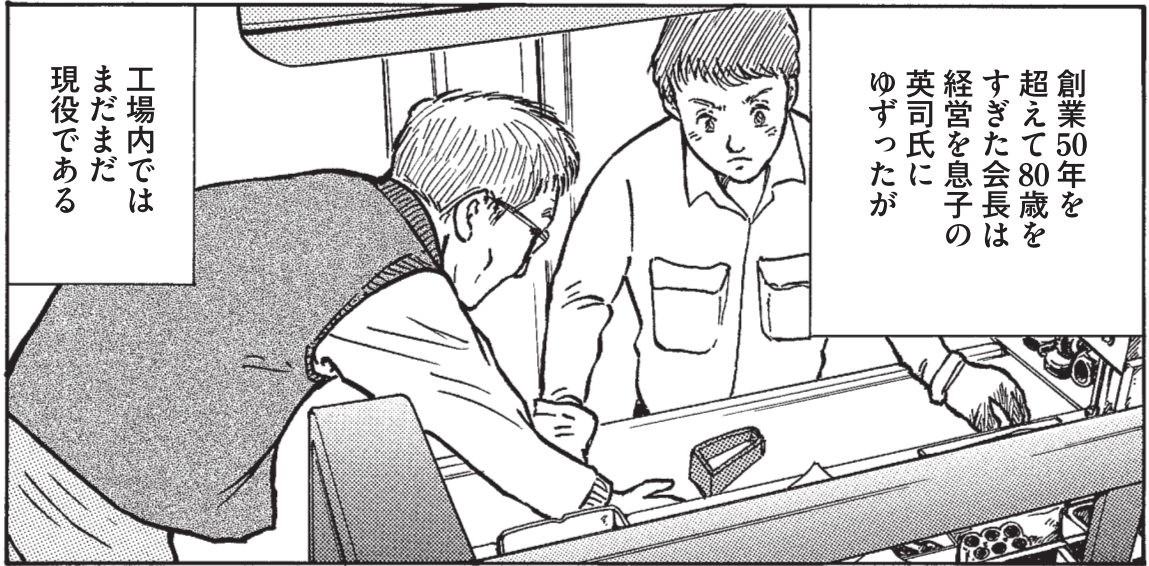
だから——
今はもうあまり
やらないけど

昔は自分で
デザインしたものを
木型のひな型に
するところまで
自分でやってたよ

ああ……
これなんか
そうだね

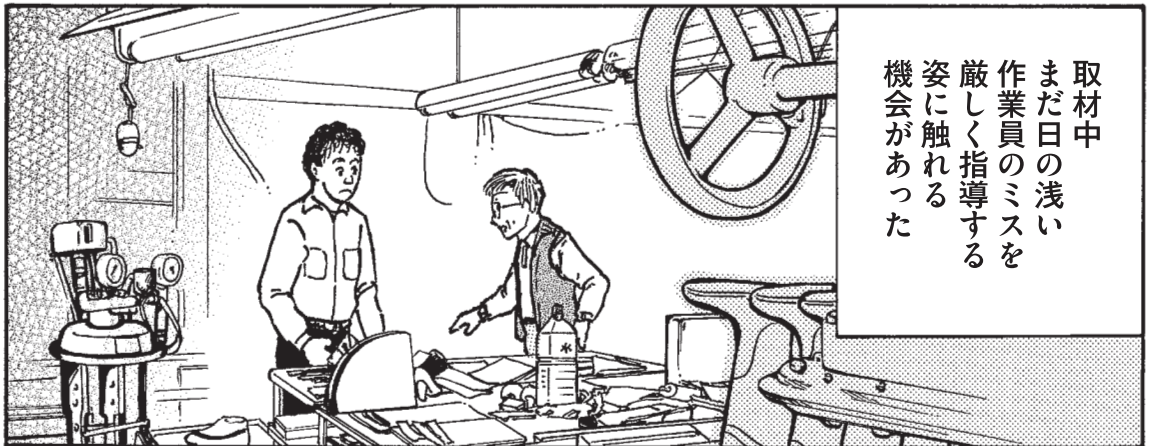
20年くらい
前のかな？

昭和39年には
独自にデザインした
婦人靴が評価され
大臣賞を受賞

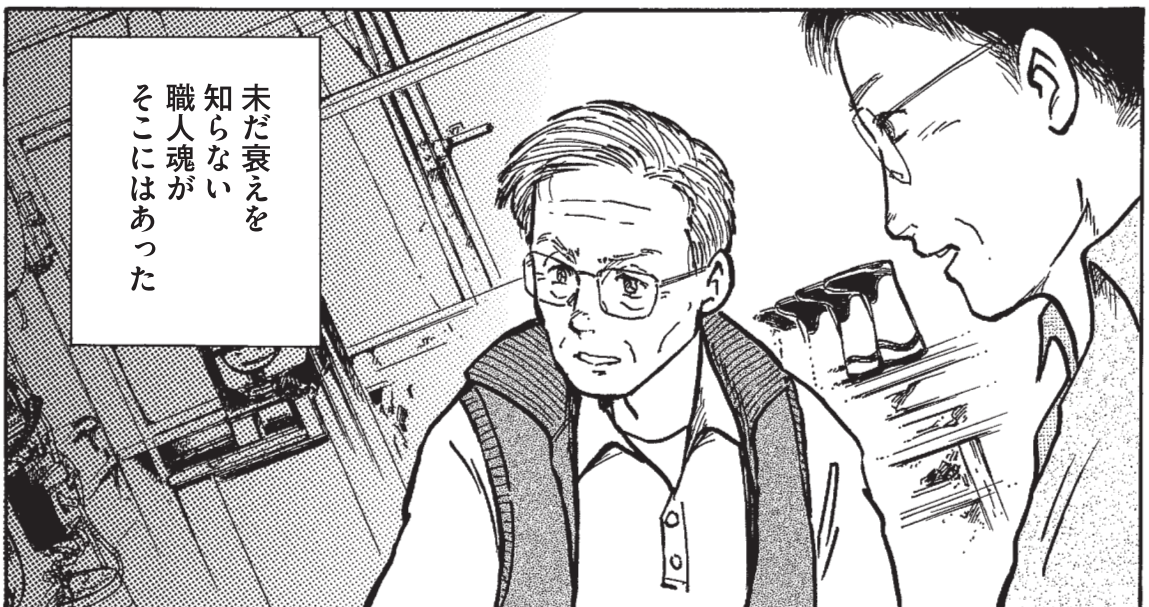


工場内では
まだまだ
現役である

創業50年を
超えて80歳を
すぎた会長は
経営を息子の
英司氏に
ゆずったが



取材中
まだ日の浅い
作業員のミス
を厳しく指導する
姿に触れる
機会があった



未だ衰えを
知らない
職人魂が
そこにはあった

KATSUSHIKA
町工場物語

認定

株式会社 ウッドヴァリ
ゴム長靴の既存概念を覆す画期的ゴムブーツ
プリントデザインブーツ



認定品名
全面印刷ゴム製品
(プリントデザインブーツ)

全面に鮮やかにデザインされたプリントが施されたゴムブーツ。ゴム長靴イコール雨天用あるいは作業用という固定観念をくつが

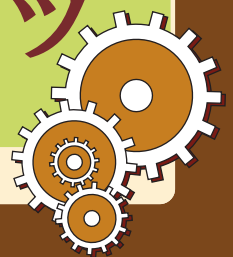
えす画期的な製品であるといえる。小さなプリントのものは以前から存在するが、全面プリントのものは(株)ウッドヴァリが初めて。大判の転写シールを貼り込むためには高度な熟練を要する。

株式会社 ウッドヴァリ

所在地 : 葛飾区立石8-48-10
電話番号 : 03-3691-6938
代表 : 森谷英司
業種 : 婦人用ゴム靴製造
従業者数 : 16名



社員を指導する森谷昇会長(左)





都内唯一のゴム靴製造工場

「昭和31年創業当時、ゴム靴製造業者は都内に36社あった。今ではうち1社だけになってしまった。残っているのは全国でもわずかから社ほどであると聞いている」と森谷昇会長(81歳)。この業界でも、中国製品の台頭などにより、かつての大手メーカーを含め、廃業が相次いだ。(株)ウッドヴァリも厳しい状態に置かれていたが、平成18年の秋から、革靴業界の間屋からの注文が増えてくるようになった。「縁の部分の折込や裏地貼りなど、革靴の製法でゴム靴を製造するという注文を受け、その製造過程で、型や材質の研究から始まり、試行錯誤を繰り返してようやく製法を確立できた。よそではそう簡単にまねできない製法です」という。他の間屋からも注文が相次ぎ、現在は忙しい状態が続いている。

品質にこだわるため 材料となるゴムシートから自社製造

おおまかなゴム靴製造工程は次のようなものである。

まず、材料となるゴムシートを製造する。ゴムシートを外注した場合、輸送の過程でキズが付く可能性があり、これ为了避免するため同社ではすべて自社生産としている。天然ゴム原料と各種の化学薬品、顔料などをドラム状の器械に投入し、一定時間混練した後、練り上がったも

のをローラーに掛け、シート状に延ばしていく。混練する化学薬品の種類や分量によって、材質の柔軟性や耐久性などが変わるため、製品の種類によっても成分を変えていく必要がある。ゴム製品製造において最も重要な工程のひとつである。次に、ゴムシート材料を裁断し、製造する靴に合わせたアルミ製の型に合わせて、接着剤で貼り合わせていく。

技術と手間をかけることによって 高付加価値化の方向を目指す

貼り合わせによって成形された製品の外形に靴底の接着などを行った後、加硫工程を行う。その工程とは生ゴムのままの加工品を加硫缶に入れ、一定時間加熱・加圧することにより、生ゴムよりもはるかに弾性や耐久性に優れた性質を持たせることである。加熱温度や圧力、加硫時間などによって、加工されたゴム製品の性質が変わってしまうため、温度等の管理は十分厳密に行わなければならない。

加硫を終えた後、必要に応じて裏地や裏底を貼る処理などを行い、箱詰めして出荷する。(株)ウッドヴァリの製品は、ひとつひとつ手作りであるため、各工程のそれぞれで職人技が必要となる。「技術を駆使し、手間をかけ、いい製品作りを心がけることにより、付加価値の高いものができる。中国製品に対抗するには、この方向しかない」と会長は語る。

(株)ウッドヴァリの技術水準の高さを示す

製品が、プリントデザインブーツである。ゴムブーツの全面に鮮やかにデザインされたプリントが施されたものであり、ゴム長靴イコール雨天用あるいは作業用という固定観念をくつがえす画期的な製品であるといえる。最初の依頼は、大手アパレルメーカーからであった。

転写の技法自体は古くからあったものだが、製品全面にプリントするということになる。話が違ふ。「大型の転写シールを作らなければならぬため、外注先の神戸の印刷屋も大変に苦心したという。

ゴム用インクの施された転写シールをゴムシートに貼付け、裁断し、ブーツの形に貼り合わせる。転写シールで転写する際に、シールを引っ張りながら貼ることが難しく、また溶剤の関係で模様が取れたりすることもある。「失敗が許されないので、当社の女性社員はみな怖がって手を出そうとしない。今は社長である息子が専門に行っている」。ここにも高度な熟練が活かされている。



一足ごと手作りで製造する(上)
下の写真は加硫缶